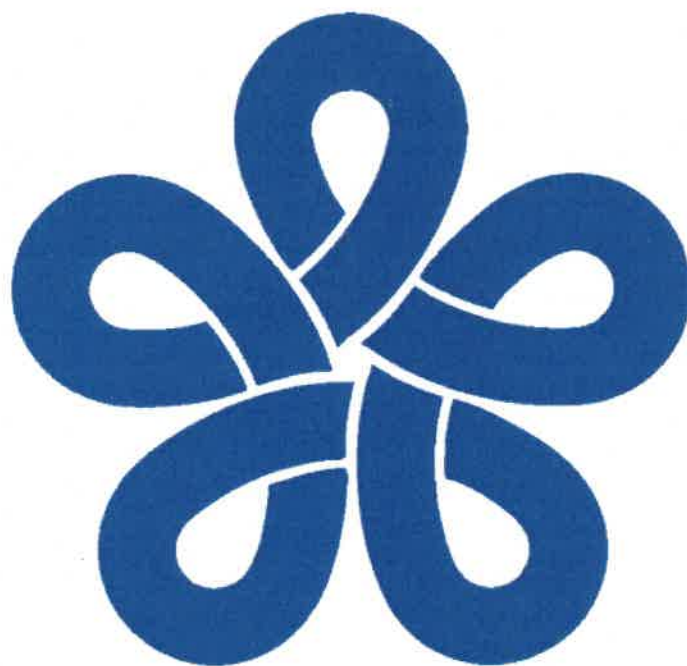


令和5年8月
福岡県・ニューサウスウェールズ州
交流促進訪問団
報告書



令和5年8月4日～10日
福岡県議会

福岡県・ニューサウスウェールズ州交流促進訪問団 報告書

(R5.8.4～8.10)

1 目 的

福岡県とオーストラリア・ニューサウスウェールズ州との友好交流の更なる発展に向け、スポーツ分野における交流促進、水素エネルギー関連事業に関する先進的な取組の調査及び意見交換並びに観光振興に係る連携強化について調査・研究を実施するとともに、第二次世界大戦中のカウラ事件に関連し、カウラ市に所在する日本人墓地を訪問し、献花を行うことで、戦没者への追悼の意を表するとともに、日豪両国の友好親善及び相互理解の深化に資するもの

2 日 程

令和5年8月4日（金）～10日（木）

3 参加者

服部誠太郎 福岡県知事
香原 勝司 福岡県議会議長
藏内 勇夫 福岡県議会 九州の自立を考える会会長
松尾 統章 福岡県議会 自民党県議団会長
大田 京子 福岡県議会 民主県政県議団会長代理
椛島 徳博 福岡県議会 新政会福岡県議団会長
その他参加議員 4名
企業関係者等 39名

（随行）国際局長ほか3名、秘書室1名、商工部長ほか1名、観光局長ほか1名、スポーツ局長ほか1名、空港対策局長、議会事務局長 ほか5名

4 訪問国等

（1）訪問国：オーストラリア・ニューサウスウェールズ州

◇ニューサウスウェールズ州

人口：約8,072千人

面積：約809,444km²

総督：マーガレット・ビズリー

首相：クリス・ミンズ

ニューサウスウェールズ州は、オーストラリア南東部に位置する同国最大の経済規模を有する州であり、州都であるシドニーはオーストラリアを代表する国際都市として発展している。

州の面積は、約80万平方キロメートルと日本の約2倍に及び、人口は約850万人を擁する。オーストラリア連邦の成立以前にはイギリス植民地の中心地として発展した歴史をもち、現在も政治、経済、文化、教育など多方面において国内を牽引する役割を担っている。

州の東側は太平洋に面しており、美しい海岸線が広がる一方、内陸部には広大な平原や農地が存在する。また、州内にはグレートディバイディング山脈が南北に連なり、海岸部と内陸部で異なる自然環境を形成している。州都シドニー周辺は、湾岸地形や丘陵地が発達しており、都市機能と豊かな自然環境が共存していることが特徴である。このような地理的条件は都市計画や交通網整備、防災対策にも大きな影響を与えており、沿岸都市として発展してきた福岡市とも共通する点が多く見受けられる。

○気候等

今回訪問した8月は南半球では冬季にあたり、シドニー周辺の気温は概ね8度から18度程度と比較的温暖で過ごしやすい気候であった。一方で、ニューサウスウェールズ州は近年、気候変動の影響による極端気象への対応が大きな課題となっている。夏季には高温や干ばつが発生しやすく、大規模な森林火災が社会問題となっているほか、集中豪雨による洪水被害も発生している。このため州政府は防災体制の強化や気候変動対策を重要政策として位置付けており、防災・減災や県土強靱化を推進する福岡県にとっても参考となる取組が数多く見られる。

○宗教

キリスト教が伝統的に多数を占めているものの、近年は無宗教層の増加が進んでいる。また、多民族・多文化社会として発展しており、ヨーロッパ系住民に加え、アジア系住民や中東系住民など多様な背景を持つ人々が共生している。公用語は英語であるが、街中では中国語や韓国語をはじめとする様々な言語が使用されており、多文化共生社会の成熟した姿を実感することができた。このような環境は、今後さらなる国際化や外国人材の受入れが進む福岡県においても示唆に富むものである。

○経済

ニューサウスウェールズ州はオーストラリア経済の中心的な役割を果たしている。シドニーには国内外の金融機関や企業本社が集積し、南半球有数の金融都市として高い国際競争力を有している。

また、観光産業や高等教育機関を中心とした教育産業、情報通信産業なども発展しているほか、内陸部では農業や畜産業が盛んに行われている。都市部における高度な産業集積と地方部における一次産業が共存している点は、福岡県における都市圏と農山漁村地域の発展を考える上でも参考となる。

○行政

オーストラリアは連邦制国家であり、ニューサウスウェールズ州政府は教育、医療、警察、交通、インフラ整備など幅広い分野において独自の権限を有している。

州議会は上院と下院からなる二院制を採用しており、州独自の政策立案や予算執行を行っている。日本の都道府県制度とは異なるものの、地方自治体が大きな権限を持ちながら地域課題に対応している点は、地方分権のあり方を考える上で大変興味深いものであった。

○インフラ等

ニューサウスウェールズ州ではシドニー港を中心とした国際物流網や鉄道、高速道路、空港などの広域交通インフラが整備されており、経済活動を支える基盤として重要な役割を果たしている。加えて、森林火災や洪水への対応を含めた防災インフラの整備にも積極的に取り組んでおり、都市の成長と安全性の確保を両立させるための施策が推進されている。

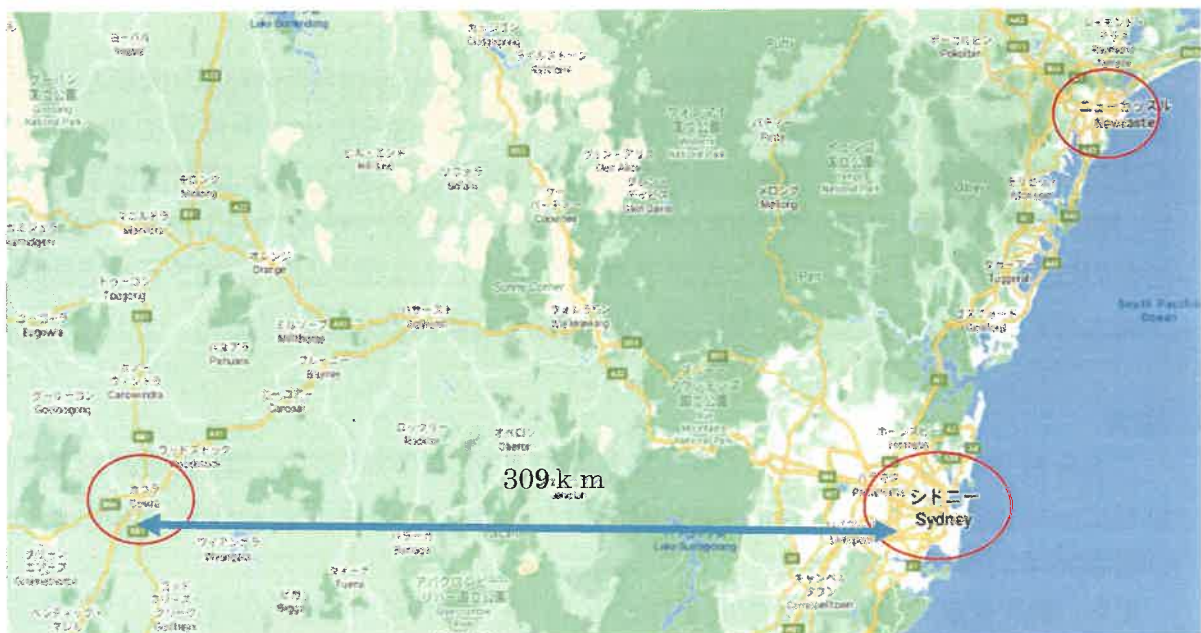
◇カウラ市概要

オーストラリアのニューサウスウェールズ州にある町(シドニーから約320km)

人口：約1万人

面積：約2,752km²

産業：遊牧、農業、ワイン



8月5日(土)

日本人戦争墓地献花式 (16:00~16:25)

【訪問先概要】

1964年11月22日開設。オーストラリア戦没者墓地の隣に位置し、日本政府がオーストラリア政府から土地の永久借地権を取得。メルボルン大学で教鞭をとった、日本人建築家の由良滋氏が墓地の入り口と慰霊スペースを設計。全ての日本人戦没者の墓がオーストラリア各地からカウラに移された。

【カウラ日本人戦争墓地の歴史】

太平洋戦争中、多くの日本人が捕虜または敵国人としてオーストラリアに投獄された。戦争初期の小規模なものから始まり、捕虜の総数は1945年には5000人以上に達した。1946年に生存者が解放されるまで、オーストラリアでは500人以上が死亡。捕虜としては、1944年8月のカウラ脱走事件での234名の死者が最大の犠牲者数であり、カウラのオーストラリア戦没者墓地の隣の敷地に埋葬された。抑留者や他の捕虜の死因はほとんどが病気で、死者は近くの墓地に埋葬された。

日本人戦没者墓問題は、1950年代に日本とオーストラリアの両政府にとって懸念事項となった。日本大使館は1955年に日本人の墓の調査を開始し、遺骨の本国送還の可能性を模索した。1959年にオーストラリアに戦没者墓地を設立することが最終的に決定され、その後1962年9月にカウラが墓地の場所として選ばれた。

カウラ住民と日本人との出会いは、1943年に日本人捕虜がカウラ捕虜収容所に移送されたときに始まった。1944年8月の大規模脱走事件は住民に大きな脅威を与えたが、戦後、カウラの地元住民により墓地の維持活動が行われている。

カウラ日本人戦争墓地に埋葬されている人々の慰霊祭は、毎年8月に定期的に墓地で開催されている。金属製墓碑には、それぞれ氏名(ローマ字)と死亡年月日が刻まれ、享年が記されている場合もある。しかし、例外的な場合を除いて、墓に眠っている人々の経歴や死亡原因はほとんど知られていない。

【内容】

カウラ市のオーストラリア人戦没者墓地において、香原議長並びに藏内会長が献花を行った。その後、隣の日本人墓地において、カウラ脱走事件で亡くなった日本兵捕虜の慰霊のため同様に献花を行った。

今回の視察を通じて、戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めるとともに、日豪両国の友好関係の重要性について認識を新たにした。また、第二次世界大戦という歴史的な出来事を乗り越え、地域住民と民間関係者の継続的な努力によって日豪両国の友好関係が築かれてきた経緯について理解を深めることができた。



(オーストラリア人墓地での献花)



(日本人墓地での献花)

サブロー・ナガクラ・パーク訪問（16：30～17：00）

【訪問先概要】

九州電力の元会長であり、戦時中は日本陸軍将校としてシンガポールに駐屯した経験を持つ永倉三郎氏が、1978年にオーストラリアで石炭等の契約交渉中に偶然にもカウラを訪れる機会を得た。その際に、オーストラリア人および日本人の戦死者墓地がカウラ市民から大切に維持・保存されていることを目の当たりにし、非常に心を打たれ、自らの資金を拠出して永倉財団を設立するとともに、戦争捕虜キャンプ地に近い場所にピクニック用の公園として「永倉三郎公園」を作った。

【内容】

永倉基金の永倉成二会長は、「来年はカウラ脱走事件から80周年で、カウラ市は色々な企画をしたいと考えている。永倉基金としては、来年8月5日のセレモニーが終わった後に、ナガクラパークに集まるような企画を考えており、パークを拠点にいい方向に広がっていることを実感している。」と挨拶した。

香原議長は「永倉会長には、カウラ市民の方々と一緒になって公園や墓地を長年管理、そして守っていただいていることに、心より感謝を申し上げたい。永倉三郎元会長が、この公園を整備されたとお聞きし感動している。今回の訪問が、皆さんの胸に残ることを心より祈念する。」と挨拶した。



（永倉会長挨拶）



（香原議長挨拶）



（パークでの記念撮影）

カウラ市長主催夕食会（18：30～20：45）

カウラ市長主催の歓迎夕食会が開催され、訪問団が参加した。

香原議長は「ビル・ウェスト市長におかれては、本年、日本の春の叙勲(じょくん)を受章されたことについて、心よりお祝い申し上げるとともに、これまでの日本とオーストラリアの交流促進への多大なる貢献に深く敬意を表する次第である。また、墓地の管理に長年ご尽力されておられるカウラ市の皆様に感謝を申し上げます。県議会としては、今後もカウラ市との交流を進めていきたいと考えているので、引き続きご支援・ご協力をいただきたい。」と挨拶するとともに、お預りした服部知事からの親書を市長にお渡しした。

この訪問で、行政関係者や地域住民との交流を通じて、国際交流は行政機関だけでなく、市民レベルでの継続的な交流と相互理解によって支えられていることを実感した。夕食会は、相互の信頼関係をより強固なものとするとともに、今後の交流事業や人的交流の可能性について意見を交わす貴重な機会となった。



（香原議長挨拶）



（知事からの親書を市長にお渡しする議長）

ビル・ウェスト（Bill West）カウラ市長

<主な職歴>

カウラ市長（2008年～）

カウラ市副市長（2004年～2005年）

カウラ市議会議員（1999年）

<その他の役職>

カウラ市議会家畜市場委員会会長

カウラ市議会監査・リスク・改善委員会会長

カウラ市議会コミュニティー開発信託委員会会長

カウラ市議会健康委員会

カウラ市議会日本庭園委員会

カウラ市議会日本庭園維持基金 など

<表彰>

・令和元年：外務大臣表彰受賞（日本とオーストラリアとの相互理解の促進）

※ブルース・ミラー前カウラ市長も同賞を受賞

・令和5年：旭日小綬章受章（日本とオーストラリアの地域間交流及び相互理解促進に寄与）

8月6日(日)

シドニー福岡県人会との意見交換会 (18:00~20:00)

シドニー福岡県人会は2015年3月に設立。今回の意見交換会に20名が参加した。

香原議長は「県人会の皆様との絆があってこそ、オーストラリアとの交流が今まで続いてきたと思う。この絆をこれからもしっかりと続けていくことが、我々のこれからの使命である。服部知事とともに我々県議会も一緒になって、しっかりと福岡県人会の皆さんと福岡やオーストラリア、シドニー、カウラ、様々な地域での交流を続けて参りたい。」と挨拶した。

その後、県人会の皆様と、オーストラリアの現状について様々な意見交換が行われ、県人会との連携強化の必要性を共有するとともに、福岡県とオーストラリアとの交流を将来にわたり継続・発展させるためには、行政間交流のみならず、県人会をはじめとする民間レベルでの交流や人的ネットワークを活用していくことが重要であるとの認識を深めることができた。



(香原議長挨拶)



(県人会会長への記念品贈呈)



(県人会の皆様と記念撮影)

8月7日(月)

ニューサウスウェールズ州総督表敬訪問 (10:00～)

【訪問先概要】

マーガレット・ビーズリー (Margaret Beazley) ニューサウスウェールズ州総督 (第 39 代)
(2019 年 5 月 2 日～ 任期なし)

1951 年 7 月 23 日生まれ

<職歴>

2019 年 5 月 2 日～：ニューサウスウェールズ州総督 (Governor of NSW)

2013 年～2019 年 2 月：ニューサウスウェールズ州裁判所長

1996 年～2019 年：ニューサウスウェールズ州控訴裁判所判事

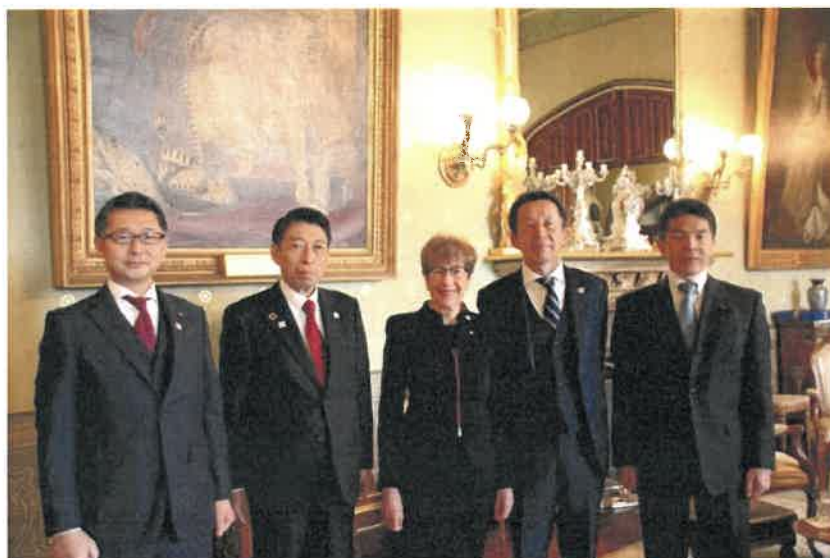
<ニューサウスウェールズ州総督>

ニューサウスウェールズ州総督は、ニューサウスウェールズ州におけるオーストラリア国王（イギリス国王が兼位）チャールズ 3 世の代理。州総督は、州首相の助言に基づきオーストラリア国王によって任命され、任期は決まっていない。

国レベルのオーストラリア総督と同様に、州総督も州レベルで君主（国王）に代わって憲法上および儀礼上の機能を果たす。具体的には、国王の布告の発布、議会で命令に署名、国王の名において立法評議会議長、立法議会議長、最高裁判所および地方裁判所の判事、州内の地方裁判所の判事を任命、など。

【表敬内容】

ニューサウスウェールズ州におけるオーストラリア国王（イギリス国王が兼位）チャールズ 3 世の代理である州総督を表敬訪問。水素エネルギーに関する交流や、スポーツ交流、福岡県の産業について意見交換を行った。



(州総督との記念撮影)

ニューサウスウェールズ州政府訪問（13:00～14:15）

服部知事は「福岡とニューサウスウェールズ州、両地域が共通して成長を目指している水素の分野における協力促進に関する覚書を今年度中に是非締結し、両地域間の連携を深めていきたい。今回の訪問を皮切りにして、今後、福岡県とニューサウスウェールズ州の交流を進め、互いにウィンウィンの関係を構築していきたい。」と挨拶された。

続いて香原議長は「県議会では、現在、アメリカ、中国、韓国、タイ、ベトナムの各地域と友好交流を行っており、それ以外の地域についても交流の場を広げているところである。今回も、カウラ市への表敬、日本人墓地への献花、サブロー・ナガラ・パークを訪問し、この歴史をしっかりと次の世代にもつないでいかななくてはならないと思った。今回の訪問では、水素、スポーツ、観光など、様々な分野において、福岡県とニューサウスウェールズ州の交流が生まれることを期待している。」と挨拶した。

アンドリュー・ルイス副事務次官は「水素をはじめとする様々な産業を更に発展させていくにあたり、福岡県そしてパートナーの皆様からさらに多くのことを学び、関係を構築し続けていければと考えている。有意義な関係がさらに構築できるようにするべく、産官学においても更なる交流ができるよう、覚書を結ぶことが出来れば嬉しく思う。今年末を目途に皆様と協力し、最終的な合意ができることを期待している。」と挨拶された。



（服部知事挨拶）



（香原議長挨拶）



（アンドリュー・ルイス副事務次官挨拶）



（州政府の皆様との記念撮影）

【訪問先概要】

◇ニューサウスウェールズ州議事堂

シドニーの官庁街マッコーリー通りに位置するニューサウスウェールズ州の議事堂は、伝統的な建物と近代的な建物が混在し、中核となる建物（本館）は1816年築で、シドニー最古の公共建築である。

当時英国の植民地であったオーストラリアに常設の病院施設が無いことに、着任間もなく気付いたラクラン・マッコーリー知事（1810年から1821年在任）が、英国政府の資金援助を受けず、1816年にシドニー初の常設病院であるシドニー病院を開設。その建設資金を賄うために、彼は請負業者に60,000ガロンのラム酒の輸入と販売を許可したため、この病院は「ラム病院」として知られるようになった。病院の元の建物のうち2つが現在も残っている（造幣局の建物だった南棟と、現在はニューサウスウェールズ州議会の一部となっている北棟）。

1824年に議会が開設された時、議員の数は5人だったため、会議はニューサウスウェールズ州総督の官邸で行った。1829年、議員数が15人に増えたためシドニー病院の病棟の一画を借りることになった。1843年には議員は36人となり議会の職員も増えたため、建物全体を議事堂として使うことになった。1856年、イギリスのウェストミンスター・システムに基づいた二院制の議会制度が導入された。これに合わせて建物の両端に上院と下院の議場を増築した。1970年代には議事堂の裏（東側）に12階建の新館が建設され、議員、職員の事務室や食堂などが移動した。

本館は議事堂として設計された建物ではないため、ビクトリア州議事堂やクイーンズランド州議事堂と比較すると質素である。このため本格的な議事堂を新築する構想は古くから存在する。過去に着工直前まで行ったこともあるが、反対意見も根強く実現しなかった。

2002年、議事堂の本館が州の文化遺産に登録された。

【内容】

ニューサウスウェールズ州議会を訪問し、州議事堂を視察、上院議長等との交流を図った。

フランクリン上院議長は「この建物は、オーストラリアにおける民主制度において非常に大きな意味を持つ建物であり、オーストラリアで初めて建てられた議事堂である。今年は200周年を迎える年であり、福岡の代表の皆様をこの場で迎えられることを本当にうれしく思う。お越しくださったことに感謝の意を表したい。」と挨拶された。

続いて香原議長は「建物の歴史、そして、このニューサウスウェールズ州の様々な議会の仕組み等をいろいろと教えていただき、参考にすることができた。我々県議会のシステムとは若干違うところもあるかと思うが、みんなで協力していこうという気持ちは、一緒なのかなと思う。我々県議会は、服部知事と一緒にあって、福岡県としてこれからニューサウスウェールズ州との交流を支援したいと思っているので、これからもよろしくお願ひしたい。」と挨拶した。



(フランクリン上院議長との記念撮影)



(議事堂内部の様子)

ニューサウスウェールズ州関係者等との意見交換会 (18:00~20:00)

徳田修一駐シドニー日本国総領事、渡邊尚之ジェトロ・シドニー事務所長、ラグビー元オーストラリア代表のニック・ファー・ジョーンズ氏等、ニューサウスウェールズ州関係者と意見交換を行った。

香原議長は「今回スポーツ、水素という大きなミッションあったが、さらにワンヘルスの推進が加わったことは大きな基礎になったと思っている。経済、青少年の育成、ワンヘルス等に関して、福岡県とニューサウスウェールズ州、そして日本とオーストラリアが、今後今まで以上に深い結びつきになる。そのような意見交換会になることを心より祈念する。」と挨拶した。

また藏内会長は「地球上の動物と人、植物、環境は一つだということでワンヘルス運動を始めた。このワンヘルスの概念のもとに我々も社会を進化させ、教育もワンヘルスというものをしっかり教えていかなければならない。次の時代の子供たちが生き抜けるような地球を作っていく。そのためには皆さん方にもご協力をいただきたい。」と挨拶した。

徳田総領事は、「皆さんは日本とオーストラリアの関係に多大なる貢献をされており、心より敬意と感謝を表したい。福岡県とニューサウスウェールズ州の協力関係が、今回の訪問を経てさらに活性化、飛躍するということを心から祈念する。」と挨拶された。



(香原議長挨拶)



(徳田総領事挨拶)



(藏内会長挨拶)



(ニューサウスウェールズ州関係者の皆様との記念写真)

◇ニック・ファー・ジョーンズ氏

オーストラリア・NSW州出身

元ラグビーオーストラリア代表。(ポジション：スクラムハーフ)

1991年ラグビーワールドカップ大会では決勝戦でイングランド代表を破り、オーストラリア代表を優勝に導いた。

8月8日(火)

ニューカッスル港、ニューカッスル大学エネルギー資源研究所訪問

【訪問先概要】

◇ニューカッスル港

792 ヘクタール (7.92 km²) の敷地を有する世界最大の石炭輸出港であり、石炭を中心に年間平均1億6,500万トンの輸出、710億ドルの貿易額を生み出している。

世界的な脱炭素の流れにより、2021年の第4四半期にはオーストラリア国内の電力市場における石炭発電量が過去最低レベルに落ち込む中、同港は2022年1月に「2040年までに港事業に必要な電力を100%再生可能エネルギーにより賄う」と発表。同時に2040年までに石炭関連事業が収益の半分にまで引き下げよう、非石炭事業の拡大、貿易の多角化にも力を入れている。

220ヘクタールの工業用跡地をクリーンエネルギー地区として再生し、水素やアンモニアなどのクリーンエネルギーの生産、貯蔵、輸出拠点化を進めるプロジェクトが進行中。連邦政府から1億ドルの資金援助を受けて進められるこのプロジェクトにより、5,800人以上の雇用、新たな教育機会、経済成長を生み出すことを目指している。

港の敷地には38を超える企業が入居しており、国際貿易のゲートウェイとして輸出入貿易のための様々なサービスを提供。また、近隣にはニューカッスル大学が設置されており、2021年10月にはニューカッスル港とニューカッスル大学との間で、「研究・開発」「人材開発」「イノベーション創出」「エネルギー拠点の地区開発」などの協力に関する覚書が締結されている。

◇ニューカッスル大学エネルギー資源研究所

NIERは連邦政府の取組として、教育投資基金から3,000万ドルの資金提供、また、ニューサウスウェールズ州政府から220万ドルの資金援助を受けて2010年に設立。

新しいエネルギーソリューションのための革新的な研究に取り組み、資源分野でのエネルギー使用量の削減を促進するために、世界クラスの施設と各分野の主要な研究者集団の構築を目的としている。現実世界の問題と多分野の専門家をうまくマッチングさせることにより、業界と研究者の協力モデルを構築している。

エネルギーと資源の分野でより持続可能なアプローチと最適化されたプロセスを達成する必要性が世界的に強まる一方、食料と水の分野でもより持続可能な実践が不可欠となるなか、同研究所は設立10年を経過し、研究範囲を拡大。エネルギー、資源、食料、水の分野にサービスを提供し、重要な資源へのアクセスに依存する地球規模のコミュニティが直面する社会、環境、経済的課題に対処している。

同研究所は、ニューカッスル大学キャラハンキャンパス内の3.8ヘクタールが割り当てられており、鉱物、化学および関連技術の大規模研究所、産業規模のパイロットプラント（試験的生産工場）、実証機器、および350名を超えるスタッフ、学生、業界パートナーのための入居オフィスを有している。

【視察内容】

ニューサウスウェールズ州の水素拠点となるニューカッスル港及び近隣に位置するニューカッスル大学エネルギー資源研究所を訪問。

ランチミーティングで香原議長は、「福岡県の水素事業については今から始まっていく事業であり、ともに足並みをそろえて進めていけば大きな事業に発展していくのではないかと、大変期待をしている。」と挨拶した。



(香原議長挨拶)



(ボート乗船にて港湾を視察)



(ニューカッスル大学エネルギー資源
研究所を視察)

観光セミナー (18:00~20:00)

【セミナー概要】

対象：デスティネーションニューサウスウェルズ※/ CEO 代理 キャスリーン・イリー
(※ニューサウスウェルズ州政府の観光局)

現地旅行会社、メディア、JNT0 など 招待者 50名程度

プレゼン：『福岡・九州の観光の魅力』

ジェーン・ローソン (Ms. Jane Lawson: 豪州トラベルジャーナリスト)

『豪州人から見た福岡のサイクルツーリズムの魅力』

アラン・テイラー

(Mr. Alan Taylor: プロ自転車競技チーム「VC 福岡」の豪州出身選手)

【内容】

世界を舞台に活躍してきたフレンチ・シェフ寺本考宏氏が2019年11月にオープンしたレストラン Kuro Bar & Dining で、現地の旅行会社やメディアを招いて福岡県観光セミナーが開催された。

大田会長代理は、「オーストラリアに到着して、素晴らしい自然、人の温かさに感銘を受けている。本日は、皆さんにも福岡の素晴らしい魅力をお伝えし、ぜひ来ていただきたいと思いお集りいただいた。今年で発祥から 600 周年を迎えた高級茶「八女茶」もご用意しているので、お酒を飲まれない方にも楽しんでいただけたらと思う。」と挨拶し、乾杯した。



(服部知事挨拶)



(大田会長代理挨拶)

8月9日(水)

アリアンツスタジアム視察及び NSW ラグビー協会 CEO との意見交換会 (10:00~12:00)

【訪問先概要】

◇アリアンツスタジアム視察

設立：2022年

観客席数：48,000人

建設資金：約900億円

平均観客数：16,000人

観客動員率(平均)：40%

アリアンツスタジアム (Allianz Stadium) は、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州シドニーのムーアパークに位置するスタジアムです。1988年にシドニー・スタジアムとして開場し、2006年にシドニー・フットボール・スタジアムに改名されました。2022年8月にアリアンツ・スタジアムとしてリニューアルオープンした。

アリアンツスタジアムは、オーストラリア代表のホームスタジアムとして、ラグビーユニオン(15人制)、ラグビーリーグ(13人制)、サッカーなどの試合が開催されています。また、コンサートやその他のイベントにも使用されている。

アリアンツスタジアムの収容人数は約4万8,000人です。屋根付きのスタジアムであり、快適な観戦環境が整っています。また、スタジアム周辺には広い駐車場やレストラン、カフェなどの施設が充実している。

アリアンツスタジアムは、シドニーのランドマークの一つであり、多くの観光客が訪れるスポットとなっている。

【視察内容】

1988年にシドニースタジアムとして開場し、2022年8月にアリアンツスタジアムとしてリニューアルオープン。オーストラリア代表のホームスタジアムとして、ラグビー、サッカーなどの試合が開催されている。スタジアム内を視察するとともに、ニューサウスウェールズ州ラグビー協会と意見交換を行った。

ポールダーン CEO は、「皆様におかれては、ニューサウスウェールズ州にお越しいただき本当に感謝する。本日の意見交換会を、非常に心待ちにしていた。私にとっては本当に特別な機会となると感じている。」と挨拶された。

香原議長は、「昨年10月に、ポールダーン CEO とピーターギブソンアドバイザーには、県議会を訪問していただいたことに感謝申し上げたい。しっかりと知事とスクラムを組んでラグビーの交流だけではなく、水素やスポーツをニューサウスウェールズ州と一緒に進めてまいるので、これからもよろしくお願いしたい。」と挨拶した。



(ポールダーン CEO 挨拶)



(香原議長挨拶)



(NSW ラグビー協会の皆さんと記念撮影)

ポールダーン略歴

NSW州ラグビーフットボール協会CED

ワラターズ (AUSプロラグビーチーム) CED

カンタス航空・ジェットスター航空訪問（14：00～14：30）

【訪問先概要】

◇カンタス航空

1920年11月に設立された、オーストラリアのフラッグ・キャリアであり、国際線、国内線を運航するシドニーに本社を置くオーストラリア最大の航空会社。

長距離を運航する航空会社としては世界を代表する存在であり、世界で3番目に古く歴史がある航空会社。

日本路線については、羽田ーシドニー、羽田ーブリスベン、羽田ーメルボルン路線が就航している。

◇ジェットスター航空

ジェットスター航空は、カンタスグループの完全出資会社として2004年5月にオーストラリアのLCC事業に参入。本社をメルボルンに置き、オーストラリアを代表するLCCの航空会社。

日本路線については、成田ーケアンズ、成田ーゴールドコースト、成田ーマニラ、成田ー台北、関空ーケアンズ、中部ーマニラ路線が就航している。

【視察内容】

カンタス航空のキャメロンCEOは、「日本は、パンデミックが終わったいま、非常に市場としても盛り上がりを見せている国である。私たちは現在、国内についてもさることながら長距離の位置にある地域にも力を入れており、日本も非常に重要な地域である。カンタス航空としても、オーストラリア国内にアピールをしていきたい」と挨拶された。

香原議長は、「カウラ市を訪問し、日本人にまだ知られてない歴史もたくさんあるので、一人でも多くの方々に知っていただくよう、これから活動していかななくてはならない。ニューサウスウェールズ州と福岡県は、四季折々の景色、世界遺産や、食べ物、そして人々の気持ちが温かいという、本当に似たような魅力を持っている両県州だと思うので、これからもしっかりと連携をしていきたい。そのためには直行便をお願いしたい。」と挨拶した。



（キャメロンCEO挨拶）



（香原議長挨拶）



(カンタス・ジェットスター航空の皆さんと記念撮影)

【団長コメント】

視察団長として、今回実施したカウラ市などをはじめとしたニューサウスウェールズ州訪問を通じて、福岡県とオーストラリアとの関係が、戦後の和解と友好を礎として、新たな成長分野における戦略的パートナーシップへと発展しつつあることを強く実感した。

カウラ市では、日本人墓地及び戦没者墓地において献花を行い、先の大戦で犠牲となられた方々へ哀悼の誠を捧げるとともに、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて胸に刻んだ。とりわけ、カウラ市民の皆様が長年にわたり日本人墓地を大切に守り続けてこられた姿勢に深い敬意と感謝の念を抱いた。

また、サブロー・ナガクラ・パークの視察を通じ、過去の悲劇を乗り越え、相互理解と和解を礎として友好関係を築いてきた先人の努力を学ぶ貴重な機会となった。

シドニー福岡県人会との意見交換では、海外において活躍される福岡県ゆかりの皆様が、福岡への深い愛着と誇りを持ちながら、両地域を結ぶ架け橋として重要な役割を果たされていることを再認識した。国際交流を持続的に発展させていくためには、行政間交流のみならず、こうした人的ネットワークや民間レベルでの交流が不可欠であることを改めて確認した。

また、ニューサウスウェールズ州政府及び州議会との意見交換では、水素エネルギーをはじめ、スポーツ、観光、人材育成など幅広い分野において大きな連携の可能性を共有することができた。特に、水素分野における協力覚書締結に向けた協議が進展していることは、脱炭素社会の実現と地域経済の発展を目指す福岡県にとって大変意義深いものである。

今回の訪問を通じて、歴史に学び、平和を礎として未来志向の交流を推進することの重要性を改めて認識した。福岡県議会としても、知事部局と緊密に連携しながら、ニューサウスウェールズ州との友好関係をさらに深化させ、経済、産業、観光、スポーツ、人材交流など多様な分野における協力を推進していく決意である。今回築かれた信頼と人的ネットワークを次世代へ確実に引き継ぎ、両地域のさらなる発展と日豪両国の友好親善に貢献してまいりたい。

**福岡県・ニューサウスウェールズ州交流促進訪問団派遣事業
スケジュール【4泊7日】**

日程		時間	行 程
1	8月4日 (金曜日)	16:30 16:45-17:15 17:45 19:35 22:20	集合(福岡空港国内線1階ANAカウンター) 出発式 福岡発 NH264 羽田着 羽田発 NH879 機内泊
2	8月5日 (土曜日)	8:55 16:00-16:25 16:30-17:00 18:30-20:45	シドニー着 <カウラへ移動(約300km/5時間)> 日本人墓地献花 サブロー・ナガクラ・パーク訪問 カウラ市長主催夕食会 カウラ泊
3	8月6日 (日曜日)	8:30-9:30 18:00-20:00	ナガクラ・パークでカウラ市長との朝食会 <シドニーへ移動(約300km/5時間)> シドニー福岡県人会との意見交換会 シドニー泊
4	8月7日 (月曜日)	10:00 11:00-12:00 15:00-16:00 18:00-20:00	ニューサウスウェールズ州総督表敬訪問 ニューサウスウェールズ州政府訪問 ニューサウスウェールズ州議会訪問 ニューサウスウェールズ州関係者等との意見交換会 シドニー泊
5	8月8日 (火曜日)	8:30 11:00-11:45 12:00-13:45 14:00-15:00 18:00-20:00	ホテル出発 <シドニーからニューカッスルへ移動(約160km/2-2.5時間)> ニューカッスル港訪問 ランチミーティング ニューカッスル大学エネルギー資源研究所(NIER) 訪問 <ニューカッスルからシドニーへ移動> 観光セミナー(知事、議長等出席) シドニー泊
6	8月9日 (水曜日)	10:00-12:00 14:00-14:30 15:00-15:30 21:00	アリアンツスタジアム視察及びNSWラグビー協会CEOとの意見交換 カンタス・ジェットスター航空訪問 産業・投資大臣との面会(知事のみ) シドニー発 NH880 機内泊
7	8月10日 (木曜日)	5:35 8:30 10:15	羽田着 羽田発 NH243 福岡着